

Focus

～この人に聞く～

債務超過の同族会社再建と財産問題を解決 地主の「資産防衛」をテーマに本を出版



芝田久右衛門
(兵庫県伊丹市)

芝田泰明代表取締役 (43)

1978年兵庫県生まれ。地主11代目。2012年父親の急死により、同族グループ会社の代表として債務超過に陥っていたグループの経営を再建。さらに一族全体の財産問題も8年で解決した。その軌跡を『11代目地主が語る叔父の独裁政権を覆した8年間戦争』として本誌に21年7月号まで連載。6月に「地主のための資産防衛」(幻冬舎)を出版。地主ドットコム代表取締役も務める。

を解決した8年間の話を紹介しました。後半はその経験を踏まえ、不動産会社・銀行・身内から資産を守る方法を解説しています。

——地主のような資産家にはいろいろな人が営業にやってきましたね。そんな環境で資産を守るために何が必要でしょうか。

覚悟を持って決断することが地主には必要です。私は父が亡くなったとき、34歳だったということもあり、最初は考えが甘かったことを反省しています。性善説で物事を考え、問題解決をする際も相手を信用したいという気持ちが強かったのです。ところが、皆口先だけで言っていることと行動が違うということを知り、叔父との闘いで痛感しました。債務超過した同族会社にしても、先が見えているのに、当時代表だった叔父も、顧問税理士法人の担当部長も手が打てなかったのは、自分のことしか考えていなかったからです。専門家を疑うことも大事だと思います。

——専門家を疑うというのは、簡単ではないですね。

見極めるためには、より多くの情報を集めることが重要です。例えば私は「五巡ルール」というのを大切にしています。これは例えば、不動産を売却する際に5社に話をしたが、各社と面談した後、2回目の面談をそれぞれの会社とします。そうすると、1回目よりも2回目の方が知識は増えて、この担当者が言っていることは本当かどうかということが分かってきます。何も知らないとコントロールされる立場になってしまいうのです。地主はコントロールする立場にならないと資産を守ることはできません。

——地主の家に生まれ、将来後継者になる方には、早く家業に入るべきだと本に書いています。

かつて私も地主の家に生まれた運を無視して家から出て自分の努力で成果を出そうと思っていました。しかし、賢い地主が増えれば土地は今よりも適切に活用され、地域に貢献することができます。もし、プロスポーツ選手や独立企業で成功していないのであれば、早く家業に入ることが重要だと思います。(永井ゆかり)

本誌連載『11代目地主が語る叔父の独裁政権を覆した8年間戦争』でおなじみの芝田久右衛門(兵庫県伊丹市)の芝田泰明氏が著書を出版した。その名も『地主のための資産防衛』(幻冬舎)だ。自身の経験を多くの地主に役立ててほしいと考えて出版を決意した芝田氏。地主が資産防衛するために必要なことについて、自身が得た教訓を踏まえて語ってもらった。

——出版おめでとうございます。

本誌連載も終了しましたが、改めて大変な経験をされました。

当初は、本を出版するというよりも、自分の経験を生かして、多くの地主の方たちの役に立ちたいと考えていました。そのことをいろいろな方に相談したら、「まずは本を出すべきだ」というアドバイスをされる方がいたので、今回の出版に至りました。

——本の前半はご自身の経験、後半は資産を防御するための実践編で、2部構成になっていますね。

前半は『家主と地主』の連載でも紹介したように債務超過だったグループ会社を再建し、財産問題